

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： ソーシャルタッチの計算論的解明とロボットへの応用
2. 研究代表者： 塩見 昌裕 ((株) 国際電気通信基礎技術研究所深層インタラクション総合研究所
インタラクション科学研究所 室長)
3. 中間評価結果

社会的関係性を備えた人同士の親しみある触れ合いに伴う時空間近傍での相互作用を解明し、それらをアルゴリズムレベルで計算・再現する計算論の確立を目的としている。「接触」のテーマ自体は非常に困難かつ重要な課題であり着眼点がすばらしい。センサ技術からインタラクション実証実験までユニークで多岐にわたる取組を行い、論文発表等の成果も順調に挙げている。

ソーシャルタッチにおける視聴覚刺激を定量的に変化させてその影響とその有効性に関する検証を進めた。ストレス耐性向上効果を示すなど、接触の意味を広く現象論的に紐解いている。脳関連活動や生理的指標（血中ホルモン等）を用いたアプローチで、ソーシャルタッチの効果を生理学的観点から評価する取り組みを進めている点は、痛みの理解につながる可能性を秘めている。他チームとの共同研究も積極的である。企業との共同研究開発も活発である。介護施設・保育施設など現場にも入り込んだ実証実験と得られた知見は評価できる。

コロナ禍で接触を含む実験が困難なところ、実験計画変更など柔軟な対応で良質の成果を上げている。今後は、接触が人同士、人とロボットの関係について如何に重要な役割を果たしているか認知科学、脳科学的に追求するなど、ブレイクスルーのための新たな展開が必要である。適切な応用分野を開拓し社会実装に接続することを期待する。